

# 週報 太田中央ロータリークラブ

2017年5月26日(金) 通算第1181回 創立記念親睦例会



会長挨拶

会長 大谷 祐三

皆さんこんばんは、5月の最終例会となりました。本日は25年前の5月に創立した当クラブの身内だけのお祝いです。25周年記念事業も終了し、いよいよあと1カ月で今年度も終わります。私も心置きなく飲んで祝いたいと思います。ラストスパートに入りますので最後までよろしくお願い申し上げます。



5月に関連する俳句で思い出しますのは、やはり「五月雨をあつめて早し最上川」でしょうか。五月雨(さみだれ)は、梅雨時の降り続ける雨、最上川は山形県にある川、急流として知られています。梅雨、急流。これで想像がつくかもしれませんが「五月雨をあつめて早し最上川」とは、梅雨の雨が最上川にあつまって猛烈な勢いで流れているという意味です。まあ、こうさらっと解説してしまうと「だから何だ?」となるのが俳句の常ですが、松尾芭蕉さん、この急流を川下りしているんですね。わー、なにやっつてんだって話じゃないですか。梅雨の豪雨で増水した川を下るなんて、死にますよ?なんでこんな無茶なことをしたのか。ゲリラ豪雨にでもあったのか。そのあたりは良く分かりませんが、実際に命がけだったようです。そんな中「五月雨をあつめて早し最上川」とか言ってるなんて、さすが俳聖。まあ、病気で死にかかっているにも俳句を作るような人ですから、これぐらいは当たり前なのかもしれません。また「なんで五月なのに梅雨?」と思われそうですが、旧暦の6月つまり梅雨の雨のことで。これを知らないとはよく分からないことになるので先に「五月雨」の意味を知っておくといいです。この句はもともと「五月雨をあつめて涼し最上川」というものでした。これは最初、松尾芭蕉が最上川の船町、大石田での句会で詠んだもので「急流を川下りする「五月雨をあつめて早し最上川・・・」」と変更されたようです。

もう一つ芭蕉で有名なのが「夏草や 兵どもが 夢の跡」です。

「昔、この地は勇猛果敢な将たちが栄光を手にする夢を見て競い合った場所だけれども、それも一時の夢。今はただ、夏草が深く生い茂るだけだ」

ご紹介した句は、芭蕉が記した「奥の細道」を書くための旅の途中、平泉(岩手県の平泉町)に立ち寄った際に詠まれた句でもあります。この場所は、源頼朝に滅ぼされるまで東北地方最大勢力だった奥州藤原氏が拠点としていた地でもあり、源義経の最期の地としても有名です。閑寂な風景を見にしながら、まるで過去の熾烈を極めた戦場を見据えているかのような句は、松尾芭蕉の心に浮かぶ想いが伝わってくるような俳句です。

◇例会場 ダニエルハウス 太田市飯田町895 TEL0276-47-1222  
◇例会日 金曜日 12:00~  
◇事務局 〒373-0853 太田市浜町3-6 太田商工会議所会館4階12号室  
TEL0276-48-8231 FAX0276-48-8232  
Eメール ota-chuo@rid2840.jp

会長 大谷 祐三  
幹事 鈴木 孝史  
クラブ広報委員会  
委員長 栄井 孝広  
副委員長 田村 政一

# 創立記念親睦例会

日時 平成29年5月26日 19:00

会場 ダニエルハウス

